

ツツジの育て方

育てやすさ：★★☆☆☆ そだてやすい

日当たり：日向

花が咲くまでの年数：1～2年

株を健全に育てるには

水はけと風通しがよい日向を好む

鉢植えは、冬に乾燥した寒風が当たらないようにする。

植え替えの適期 3～4月、9～10月

用土 赤玉土（細粒）：鹿沼土（細粒）：ピートモス：バーミキュライト＝4：2：3：1

または

山野草用土：園芸用培養土：赤玉土（細粒）＝1：1：1

庭植えの場合

①幅・深さとも根鉢の2倍ほどの大きさの穴を掘ります。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を1/3ほどくずします。

③木の根元が地表より10～15cm高くなるように穴の底に用土を入れ、穴に水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。水を与えると株が沈むので、最初は高めに植えます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

※水はけが悪い場所では植穴の底に5cmほど砂利を敷いてから植えます。

鉢植えの場合

2年に1回くらいのペースで、一回り大きな鉢に植え替えます。

①根鉢より1回り大きい鉢を用意します。

②布ポットの場合は側面に切れ目をいれ、そのまま植えます。ポリポットやプラスチック鉢の場合は根鉢を抜き、根を軽くくずします。

③鉢に用土を入れ、株を据えたら、水を入れながら根となじむように、すき間を用土で埋めます。

④株もとの用土を手で押しかためます。

水やり 庭植えの場合は土がひどく乾かないかぎり必要ありません。鉢植えは夏は朝と夕方、春と秋は1～2日に1回程度、冬は土の表面が乾いたらたっぷりと与えます。

肥料 冬に緩効性化成肥料（N・P・K＝8-8-8など）か油かすを寒肥として株のまわりに施します。追肥は開花後と秋に緩効性化成肥料（N・P・K＝8-8-8など）を施します。

剪定 ほとんど必要ありませんが、枝が茂りすぎた時は、枝分かれしている付け根で切ります。開花後、

なるべく早い時期の6月までに剪定します。夏以降に剪定すると、せっかくできた花芽を切ることになるので、翌年花が咲かない原因となります。

病害虫

ハダニ

症状：葉の汁を吸うため、美観を損ねたり生育が悪くなったりします。

対処：園芸用殺虫スプレー（ハダニ用）を散布します。

グンバイムシ

症状：葉の汁を吸うため、美観を損ねたり生育が悪くなったりします。

対処：スミチオン乳剤などを散布します。

ベニモンアオリンガ

症状：幼虫が新芽やつぼみを食べるため、花が咲かない場合があります。

対処：オルトラン液剤などを散布します。

※薬剤散布に際しては必ず商品の説明をよく読み、記載内容に従って正しく安全に使用してください。